

UD-LAB yokohama PLOT 始動

2025.07.20

～UD-LAB ExPLOT Studio で都市の針治療を行う！～

●横浜都心部の課題と対策

横浜の都心部は、みなとみらい 21 の完成、関内駅周辺の大規模開発が完成すると、大規模都市開発事業は終了を迎える。これからは都市造りのソフト展開、特に多様な分野での交流を通してイノベーションが生まれることが期待されている。

しかし、みなとみらい 21 は、大企業が集まった均質な街で多様性がなく、企業交流会でも単なる名刺交換に終わり、個人の魅力で交流することがなく、巨大で管理された都市空間において、都市が提供する資本主義経済を享受するだけで、個人の自主性が発揮できない街になってしまっている。

このような都市では、改めて個人に着目し、多様な人が、自主的に自由な発想で交流・活動する種を複数撒き育てることで、都市の生態系を、イノベーションを生み出す環境に変えていく必要がある。

医学に例えると、今までは人口増加・経済成長の時代だったため、西洋医学的な課題解決型の大規模都市改造が中心だったが、それだけでは都市が魅力的にならず、人口減少・経済低迷の時代の都市づくりとして、東洋医学の鍼灸のような、都市空間の中のツボに足りない小さな活動と空間を埋め込むことにより、賛同し活動する人を巻き込み、じわじわと都市という生態系を改善することに似ている。

●プロジェクトの進め方

このプロジェクトでは、分野ごとにコーディネーターを配置し、みなとみらいを中心とした横浜都心部全体をにらみながら、活動の種を撒き、その活動が広がっていく環境をサポートする必要がある。

また、PLOT は、仮設であり広場もある、みなとみらい 21 で優位いつ残された自由空間とも言え、各主体がアイデアを出しやすく、主体的な活動がしやすい場所と言える。このようなプロジェクトの拠点押として、ExPLOT Studio に LAB 拠点をつくり、この活動を主体するコーディネーターの活動拠点として活用するとともに、カフェコーナーで交流が広がるようにする。

今回は ExPLOT Studio にアーティスト・クリエイターが入居していることを活用し、アートと連携した活動を複数つくり、多分野にわたる都市活動（「アート・まちづくり・MM コミュニティ・大学・福祉等）が広がり、足りていなかった都市コミュニティをつくり、そのネットワーク形成を図ることにより、横浜都心部における都市活動の生態系を緩やかに改善することを目指す。

●コーディネーター

◎全体総括：岡部 友彦 （コトラボ合同会社代表）
：秋元 康幸 （UD-LAB 主宰）

- ◎ア ー ト：細淵 太麻紀（BankArt1929 代表）
- ◎企業連携：小島 健詞（design MeME 合同会社代表）
：納屋 昌之（納屋ラボ代表）
- ◎大学連携：鈴木 伸治（横浜市立大学教授）
- ◎福 祉：荒木田 百合（元横浜市副市長）
- ◎発注者側：椿 真吾（横浜都市みらい顧問）

●活動

コーディネーターは、ExPLOT Studio を拠点に、時にはプロジェクトの主体として、時には各主体のつなぎ役として、時には各種対の活動をサーポーとするなどのやり方で、連携プロジェクトを実施し、胃の米ティブナアイデアを展開するとともに、その活動の幅を広げ、横浜都心部での魅力的な連携活動を広げていく。

具体的には、

☆アート×企業(その1)：ExPLOT Studio を「あと一工夫」探す場所にする。アーティストの表現に対する悩みを企業や研究機関のサイエンティスト/エンジニアとのコラボレーションで解決する。

☆アート×企業(その2)：企業内技術者と連携し、大企業としてではなく企業内技術者個人がチームを組んでアーティストをサポートする環境を創り出す。

☆アート×福祉：福祉とアートのコラボを目指した活動を進める。まず ExPLOTStudio のスタジオ オープンにあわせ、入居者アーティストとの意見交換の場を創る。

☆アート×大学：横浜市立大+横浜国大+神奈川大 共同の創造都市スクールを開催する。創造都市 スクールは ExPLOT Studio を場の中心にする。今回の、ExPLOT Studio での活動を検証する議論を、他都市の事例を踏まえてスクール内で進める。

以上